

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

共通教育推進室	
(責任者名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">平尾 毅</span>	(役職名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">共通教育推進室長</span>

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは、全学生にとって履修可能な科目により構成しており、必修科目として前期に開講している「ITリテラシー」、「情報科学Ⅰ」、「コンピュータ演習」ではOfficeソフトの基礎的な活用方法等を中心に、個別の学習状況・理解度に応じて学修支援を行った。「知へのマインドセット」では、AIが社会や未来に与える影響やITがどのように社会を変えていくのかについての講義を行った。</p> <p>後期の「データサイエンス基礎」、「情報科学Ⅱ」では数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシー部分を基に、用語の説明や実践事例の紹介、また、Excelを使ったデータ分析手法を学び、目的設定、情報収集、データ分析、表現までの一連の流れを実践した。</p> <p>単位未修得者の割合は、以下の通りとなっている。</p> <p>「知へのマインドセット」 5.0%                      「ITリテラシー」 3.1%                      「データサイエンス基礎」 4.6%                      「コンピュータ演習」 1.2%                      「情報科学Ⅰ」 0.3%                      「情報科学Ⅱ」 1.0%</p>
学修成果	<p>令和6年度の最終成績は以下のとおりである。※( )内は令和5年度年度実績</p> <p>「ITリテラシー」                      S:55.09%(55.91%) A:22.03%(24.54%) B:10.3%(9.59%) C:5.06%(4.56%) D:7.52%(5.40%)</p> <p>「情報科学Ⅰ」                      S:73.53%(75.18%) A:18.63%(17.20%) B:5.88%(5.16%) C:0.98%(1.72%) D:0.98%(0.74%)</p> <p>「データサイエンス基礎」                      S:33.33%(42.36%) A:36.51%(30.57%) B:15.56%(12.85%) C:7.98%(7.60%) D:6.61%(6.65%)</p> <p>「情報科学Ⅱ」                      S:79%(63.18%) A:14%(27.11%) B:4%(7.46%) C:3%(1.99%) D:0%(0.25%)</p> <p>上記の結果から、「高度情報社会におけるITの基礎的知識ならびに専門教育に向けた基本的なITスキルの習得」や「データサイエンスに関する基礎的・汎用的能力の獲得」については達成できていると判断している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「知へのマインドセット」「ITリテラシー」「データサイエンス基礎」「コンピュータ演習」「情報科学Ⅰ」「情報科学Ⅱ」の授業終了後アンケート結果は以下の通りである。</p> <p>設問内容: 私は、この科目の内容をよく理解できた。</p> <p>「知へのマインドセット」 理解できた44.9% やや理解できた39.5% 計84.5%                      「ITリテラシー」 理解できた52.1% やや理解できた35.4% 計87.5%                      「データサイエンス基礎」 理解できた49.9% やや理解できた36.4% 計86.3%                      「コンピュータ演習」 理解できた58.5% やや理解できた33.8% 計92.3%                      「情報科学Ⅰ」 理解できた51.1% やや理解できた36.7% 計87.8%                      「情報科学Ⅱ」 理解できた37.3% やや理解できた43.3% 計80.6%</p> <p>理解度について、いずれの科目においても80%~90%近くの学生が理解できていると回答している。</p> <p>前期に開講する「ITリテラシー」「情報科学Ⅰ」では、Word、Excel、PowerPointの基礎の習得を実感する学生の声が多くあった。後期に開講する「データサイエンス基礎」「情報科学Ⅱ」では、情報リテラシーへの理解や具体的なデータ管理についての習得を実感する声があった。大学での今後の学びや就職後に役立つ内容を学ぶことが出来たと今後役立つと感じる学生が多かった。</p>
学生アンケート等を通じた先輩等他の学生への推奨度	<p>授業アンケートでは、以下の回答があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの使い方や、Word、Excel、PowerPointの使い方など様々な基礎をまなぶことができ良かったです。</li> <li>・他の授業でWordやExcelを使用するとき、インターネットや教科書で調べなくても自分の力で使用できるようになったので受講してよかったです。</li> <li>・Word、Excelなどの基礎的な知識が学べてとても役に立つ授業内容だと思います。パソコンの操作を一つ一つ丁寧に説明してくれているのでとても分かりやすいです。</li> <li>・WordやExcelの操作において、基本的な操作方法や多様な活用方法、さらにそれらをより効率よく、分かりやすく作成する工夫まで、今後ずっと役に立つことをたくさん学ぶことができました。また、1度学んだ技術がその後の授業でも繰り返し出されていて、忘れることなく自然に身に付いていったので、とても良かったです。さらに、単に問題が出されるだけでなく、解答や計算過程も一緒に載っていて、問題で分からないことがあっても確認しながら進められたので、より頭に残りました。そして、この講義を通して、PCに対する苦手意識もすごく減ったので、本当に受講して良かったです。</li> </ul> <p>以上のことから、授業を通じてOfficeソフトの基礎的な活用やデータ分析手法への理解が深まっていることが伺え、推奨できる内容となっていると考えられる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムを構成する一部科目は、各学部・学科において必修科目であるため、単位取得率は100%を目指している。対象者5117名に対して、今年度にプログラムを修了した学生は1565名と、30.6%の学生がリテラシーレベルの学修を終えている。</p> <p>リーフレットやポータルサイトシステム、本学のホームページを活用した積極的な周知・広報を行い、本プログラムを修了する意義を伝えることで、学生自身が主体的に学び、考える土壌を醸成しプログラム修了生の獲得を目指していく。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p>	<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>本プログラムである、「たちはなAI・データサイエンスプログラム」は令和4年度に運用を開始しており、対象者についても令和4年度以降の入学生に限定しているため、現時点で本プログラム修了者の中に卒業生は発生しておらず、現段階ではプログラム修了者の進路や企業等での活躍状況等を評価することはできない。                      今後は、就職進路課とも連携を行い、卒業生アンケートを通じて、業種・業界を問わず、プログラム修了生の進路状況やその後の活躍(課題発見能力、情報分析力といったデータを適切に扱うことができる、デジタルリテラシーが身についているか等)の調査・分析を実施していきたい。</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p> <p>本プログラムの認定科目の多くが、全学における教養科目として開講されており、科目個別では、授業アンケート結果を踏まえた改善や、教員個人による「授業改善集」という形にまとめた教員自己点検を実施することによって鋭意改善を実施しているが、産業界からの視点は、得られてはいないというのが現状である。                      令和4年度から本プログラムを開始したため、本プログラムを修了した卒業生は発生していないが、今後、卒業生へのキャリアに関する卒後アンケート項目に、本プログラムの有用性を追記し、その効果を図るとともに、産業界からの視点を含めることが可能となるよう、カリキュラムの変更、科目運用について検討していきたい。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムは全学生を対象としているため、興味を持つ分野が異なる学生にも対応する必要がある。そのため、導入部分では、自身が学んでいる学問を通じてデータやAIの活用状況を調べるなど、自分ごととして、これからの自分のキャリアにどのように関わるかを認識させる課題を組み込んでいる。また、AIの活用事例として、生成AIなどの最新の事例を紹介し、AIを身近に感じさせる内容を取り入れている。データ分析においても、自分自身の考察を加えることを条件とし、単なる作業にとどまらず、解決策を考える授業内容に設計している。本プログラムは段階的な教育プログラムとして構成されており、一部科目は必修科目として運用されている。そのため、学生全員が数理・AI・データサイエンスの基礎的知識や能力を習得することを目指している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>「ITリテラシー」、「データサイエンス基礎」、「情報科学Ⅰ」、「情報科学Ⅱ」のいずれもオンデマンド授業であるため、見やすさや理解しやすさに重点を置いて学習動画を作成している。アンケート結果でも、「動画だと操作方法が分かりやすい」「繰り返し見返せる」など、これらの取り組みに対して肯定的な意見が多く寄せられた。                      授業内容については、生成AIや各業界での事例などを常に最新の情報に更新し、学生の学習機会を増やす取り組みを継続している。また、社会の変化や生成AIをはじめとする技術の発展を踏まえ、教育内容を定期的に見直し、より効果的な学びを提供できるよう努めている。これにより、学生が現実の技術や社会動向に即した知識を習得できるよう、柔軟に対応している。さらに、クラウド型成績管理システムを導入し、実際のOfficeソフトを使って解答操作を行う実践的な学習を実施している。これにより、能力値の分布や成長性を可視化し、学習の習慣化や動機づけを行っている。今後も、教育方法や評価手法を継続的に改善し、学生一人ひとりの学びの質を高めるための取組を推進していく。</p>